



### 地域社会

産業廃棄物の処理業を営むには、近隣住民の皆様の理解が欠かせません。積極的な対話や交流に努めるとともに、地域の活性化に繋がる社会貢献に取り組んでいます。

## 蒲郡市とのサーキュラーエコノミー協定の締結

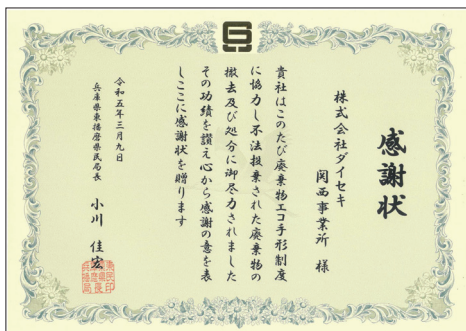
ダイセキは2022年12月に蒲郡市における公民連携によるまちづくりを推進するため、蒲郡市と連携協定を締結しました。蒲郡市は、サーキュラーエコノミーをまちづくりに組み込み、積極的に推進していく都市である「サーキュラーシティ」を目指すことを表明されています。本協定は、蒲郡市とダイセキが、それぞれの資源及びネットワークを有効に活用することにより、サーキュラーシティの実現のため、循環型社会・サーキュラーエコノミーを推進するとともに、地域の課題解決・地域の活性化を図ることを目的としています。



蒲郡市との事業連携に関する協定締結式(ダイセキ)

## 不法投棄廃棄物の撤去活動への参加

ダイセキ関西事業所は地元自治体の要請により、「廃棄物エコ手形制度」を活用した不法投棄廃棄物の撤去活動に参加しました。本制度は、東播磨地域内において管理者不在の民有地等に不法投棄又は不適正処理され、地域の生活環境を悪化させている廃棄物を、廃棄物処理業者と地元住民及び行政が協力して撤去・処分し、再発防止策を講じるものです。当日は県道沿いに不法投棄された廃棄物の撤去を行いました。



兵庫県東播磨県民局から感謝状を受領(ダイセキ関西事業所)

## 紺綬褒章受章

ダイセキは2021年と2022年の2年連続で明石市の環境関連事業への支援として寄付を行いました。その結果このたび紺綬褒章を受章しました。



受章の様子(ダイセキ関西事業所)

## 災害廃棄物仮置場設置・運営訓練への参加(ダイセキ環境ソリューション)

ダイセキ環境ソリューションは2022年7月に名古屋市の「住民用仮置場の開設訓練」、9月に北名古屋市の「災害廃棄物仮置場の設置・運営訓練」、11月に豊明市の「災害廃棄物仮置場設置・運営訓練」に参加しました。これらは自治体と愛知県産業資源循環協会が主催する訓練で、仮置場の設置状況や災害廃棄物の受入れ態勢などについての確認と検証を行うものです。災害に対する準備と練度の向上を図ることができました。これからもダイセキグループとして災害廃棄物処理だけでなく、自治体と地域社会と協力して平時の準備や訓練にも取り組んでいきます。



北名古屋市の「災害廃棄物仮置場の設置・運営訓練」(ダイセキ環境ソリューション)

## 地域社会や利害関係者の方々との交流や情報発信について

近隣の住民の皆様との対話に努めるとともに、環境関連の注目を集めるイベントや投資家を含む利害関係者の方への説明会等を通じて、情報発信に努めています。

### COP27ヴァーチャル・ジャパン・パビリオンへの出展

ダイセキは2022年11月に環境省が主催した「COP27ヴァーチャル・ジャパン・パビリオン」に出展しました。

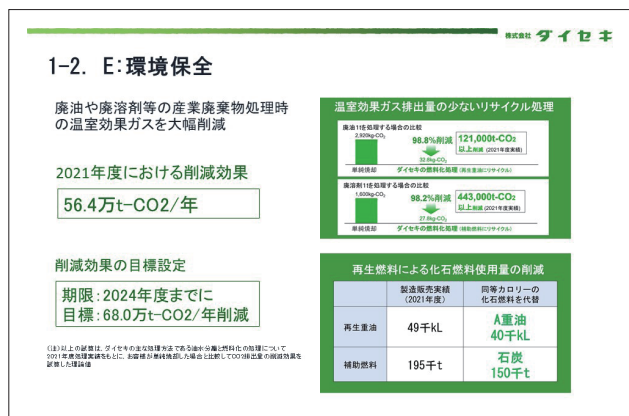
ダイセキのリサイクル・産業廃棄物処理事業がサーキュラーエコノミーの実現に貢献すること、リサイクル製品である再生燃料は石炭や重油の代替燃料として利用されており、化石燃料の使用量を削減できること、廃棄物のリサイクル処理は単純焼却処理と比較して温室効果ガス排出量を98%削減できること等を説明しました。



COP27ヴァーチャル・ジャパン・パビリオンの説明用スライド

### 機関投資家向けESG説明会

2022年10月に機関投資家向けに実施した第2四半期決算説明会とあわせて、ダイセキのESG活動を説明する説明会を開催しました。ダイセキのリサイクルビジネスや温室効果ガス削減、ダイバーシティの推進などの取り組みを説明しました。



ESG説明会の説明用スライド

### 東京大学One Earth Guardians育成プログラム(東京大学OEGs)との協働

ダイセキは東京大学OEGsという東京大学大学院農学生命科学研究科が立ち上げた地球を守るための100年プロジェクトへの支援を2022年度に開始しました。2022年度はサーキュラーエコノミーによる地球環境の保全をテーマとして、どのようなビジネスを検討していくかを検討しました。ダイセキの社員がサーキュラーエコノミーの現状とビジネス上の課題を伝え、東京大学の学生が科学的な見地から調査と検討を行い、その結果を2023年1月にダイセキの役員に発表を行いました。2023年度も本活動を継続していく予定です。



東京大学OEGs発表会(ダイセキ本社)

### ● 災害支援活動に参加した社員の声

Voice

#### 珠州市災害支援活動に参加し、被災地の復興支援を実施

ダイセキ 北陸事業所 安全推進室 課長代理 中川 幸彦

2023年5月に石川県能登地方で発生した最大震度6強の地震による被害等に伴い、様々な震災廃棄物が大量に発生しました。これらは石川県産業資源循環協会の主導のもと、分別して処理業者へ処理手配されていましたが、分別が困難で処理が滞っている状況でした。この度、石川県産業資源循環協会の応援要請を受け、私ともう1名で珠州市災害復旧支援活動に震災廃棄物の分別作業員として5月～6月にわたり参加しました。主に住民の方が軽トラックで持ち込んだ震災廃棄物を荷下ろしして指定の場所に種類ごとに分別する作業を行いました。ご高齢の被災者が多く、作業中に「ありがとう」と感謝のお言葉をいただきました。今後も、産業廃棄物の処理事業者として震災の復興支援に積極的に参加していきたいと思っております。

